

# AMADEUS SOCIETY ORCHESTRA 52nd CONCERT

第52回演奏会

## アマデウス・ ソサイエティ 管弦楽団



川本貢司(指揮)

福原彰美(ピアノ)

小高園里子(オルガン)

【出演】指揮 川本貢司  
ピアノ独奏 福原彰美  
オルガン 小高園里子

【曲目】レスピーギ：交響詩「ローマの噴水」  
ラヴェル：ピアノ協奏曲 ト長調  
サン＝サーンス：交響曲第3番「オルガン付き」

Ottorino Respighi: Fountains of Rome  
Maurice Ravel: Piano Concerto in G major  
Camille Saint-Saëns: Symphony No.3 in C minor "with organ"

Conductor: Koji KAWAMOTO  
Piano: Akimi FUKUHARA  
Organ: Eriko KOTAKA

【公演日程】2019年

4/14(日) 開演14:00(開場13:00) 東京芸術劇場 コンサートホール  
入場料金：指定席 2,000円(一部当日指定あり)

お問い合わせ | 広報担当 ✉ amadeus.society@gmail.com

チケット | チケットぴあ <http://t.pia.co.jp> [Pコード: 143-168]

取り扱い | 東京芸術劇場ボックスオフィス ☎0570-010-296 10:00~19:00(休館日を除く)

※4歳未満のお子様のご入場はご遠慮いただいております。東京芸術劇場内の託児サービスをご利用ください。  
わからずいた ☎0120-415-306(平日9:00~19:00)(公演1週間前まで要予約・有料)

【アクセス】

〒171-0021 東京都豊島区西池袋1-8-1 ☎03-5391-2111(代) FAX 03-5391-2215

●受付時間 9:00~22:00(休館日を除く) ●JR・東京メトロ・東武東上線・西武池袋線 池袋駅西口より徒歩2分  
駅地下通路2b出口と直結しています





## Profile



## アマデウス・ソサイエティ管弦楽団

Amadeus Society Orchestra

1991年3月に慶應義塾ワグネル・ソサイエティ・オーケストラの卒業生を中心に“アマデウス・ソサイエティ室内管弦楽団”として設立されました。音楽を愛する気持ちが人の輪を呼び、現在は多方面からも仲間を迎え、より活発な演奏活動を行っています。設立当初は室内管弦楽団の名のおり小規模編成を主体としていましたが、団体規模の拡張に伴って「室内」の2文字を外し、現在の名称「アマデウス・ソサイエティ管弦楽団」となりました。

発足当初から基本的に年2回の演奏会を行っています。選曲の幅を広げるという趣旨に基づいて「真の意味で演奏活動を楽しむ」という目標を掲げ、ホールやプログラムに応じて編成をある程度自由に拡大縮小できるような方針で運営を行っています。第1回演奏会からしばらくは、モーツァルトやベートーベンの交響曲を中心に取り上げて参りましたが、第10回演奏会で、ブラームスの交響曲第1番を取り上げてから、徐々に大きな編成の曲も取り上げるようになりました。その後も編成にとらわれない柔軟な選曲で幅広い演奏活動を継続、演奏会の開催も、本公演をもって52回目となりました。

これからもアマデウスは、演奏の質を高めていくことを前提としつつ、音楽を楽しむことをよく知るメンバー相互の信頼関係で成り立つ“自然体”の楽団であり続けます。

Facebookページ <https://www.facebook.com/amadeussociety>

オフィシャルウェブサイト <http://amadeussociety.web.fc2.com/>



© Sunhao Chou

福原彰美 (ピアノ)

Akimi FUKUHARA, Piano

14歳で浜離宮朝日ホールにてソロリサイタルを開催、ライブ録音が学研プラッツレーベルから発売される。15歳で単身渡米し、サンフランシスコ音楽大学、ジュリアード音楽院で学ぶ。アメリカ国内外の主要ホールで演奏し、これまでにカリフォルニア・ユース・シンフォニー、パロ・アルト・フィルハーモニック、UCDavisシンフォニー、サンフランシスコ・コンサヴァトリー・オーケストラ、ゼファー・ミュージック・フェスティバル・オーケストラ、ルートヴィヒ管弦楽団等と共演。日本とアメリカをはじめ、フランス、イタリア、韓国、中国、台湾、エクアドル等で演奏する。2011年シャルル・ピグマリオンデイズ参加アーティスト。多胡まき枝、故・松岡三恵、マック・マックレイ、ジャロン・マン、ヨヘイヴェド・カプリンスキー各氏に師事。

2017年にリリースされたソロアルバム『ブラームス：ピアノ小品集』(Acoustic Revive)がレコード芸術誌の「準特選」、オーディオアクセサリー誌の「今季の特選盤」に選ばれる。また、学研プラッツよりリリースされたソロアルバム『l'enfant de la musique』、『Akimi plays Chopin and Liszt』がナクソス・ミュージック・ライブラリーにて配信される。

室内楽では、クリスティーン・ワレフスカ、ナサニエル・ローゼン、ピエール・アモイヤルなど著名な演奏家と共演。室内楽アルバムへの参加も多く、2018年には、中国の著名なクラリネット奏者ワン・タオと共演した『Spin 旋』(ドイツグラモフォン)、ピエール・アモイヤル(vln)、ナサニエル・ローゼン(vc)、清水祐子(vla)と共演した『ブラームス&シューマンピアノ四重奏曲集』(SHOFUSHA)がリリースされた。

2019年には、トビー・ホフマン(vla)との共演アルバム(SHOFUSHA)のリリース、秋山和慶指揮/東京交響楽団との共演等を予定している。クリスティーン・ワレフスカとは2010年の来日時にその実力を認められ、以来パートナーとして、世界各地の公演で共演している。

スイス国立ジュネーブ音楽院を1等賞及びジュネーブの町より特別賞を得て卒業。在学中に、スイス・フランスの国際オルガンコンクールに入選。スイス・フランス・イタリアなどにおいてリサイタルや合唱伴奏などを行うほか、教会オルガニストとして活躍。

2003年度横浜みなとみらいホールオルガニストインターンシップ修了。オルガンを酒井多賀志、リオネル・ログ、ミッシェル・シャビユイ、アレシオ・コルティ、三浦はつみの各氏に師事。ヨーロッパや日本など国内外において様々なマスタークラスに参加して研鑽を積みつつ、リサイタルやアンサンブルなどの演奏活動を行う。

日本オルガニスト協会・日本オルガン研究会会員。日本基督教団成宗教会オルガニスト。サクライ楽器・ヤマハ横浜クラシックオルガン科講師。



小高園里子 (オルガン)

Eriko KOTAKA, Organ



川本貢司 (指揮)

Koji KAWAMOTO, Conductor

島根県生まれ。2001年よりドイツを拠点に国際的な指揮活動を展開し、正統的な音楽語法を踏襲しつつ、現代的な感性と明晰な解釈で歌い上げる斬新で透明感ある演奏スタイルは、海外においても高い評価を確立している。第10回東京国際音楽コンクール指揮部門に22歳の若さで入賞。第59回「ブラハの春」国際音楽コンクール指揮部門において第3位。

2001年から2007年、フォアボンメルン歌劇場第一専属指揮者ならびに北東ドイツ・フィルハーモニー管弦楽団首席指揮者を兼任。2008年から2014年、チェコにおける初の日本人音楽監督としてビルゼン放送交響楽団を指揮。また、スロヴァキア・フィルハーモニー管弦楽団、プラハ放送交響楽団などの名門オーケストラを筆頭に、チューリングン・フィルハーモニー管弦楽団、ヴェルツブルク・マインフランケン歌劇場、スロヴァキア放送交響楽団、オンタリオ・フィルハーモニック、クラスノヤルスク交響楽団、ドニブロペトリス国立フィルハーモニー管弦楽団、イスタンブール国立交響楽団、マラガ交響楽団など、欧州、北米・南米、ロシア、アジアの50以上のオーケストラを指揮し、現在に至るまで客演を重ねている。国内においては東京フィルハーモニー交響楽団、札幌交響楽団、京都市交響楽団、仙台フィルハーモニー管弦楽団、広島交響楽団等、各地のオーケストラと共演。

近年は、2013年4月の浙江交響楽団との共演を契機に、中国においても非常に高い評価を確立し、深圳交響楽団、西安交響楽団、青島交響楽団、河北交響楽団、貴陽交響楽団、福建省歌劇場をはじめ、中国全土で日本人指揮者としては類を見ない数の客演を重ねている。

東京芸術大学音楽学部指揮科を卒業。在学中に指揮法を若杉弘、小田野宏之、遠藤雅古、フランシス・トラヴィス、学内のマスタークラスにおいてヴァレリー・ゲルギエフ、セルジュ・チェリビダッケ、渡米後にグスタフ・マイヤーの各氏に師事。

生涯の師と仰ぎ、最も影響を受けた指揮者であるシャルル・デュワ氏からは、リハーサルに帯同する許可を受け、2009年より世界各地で巨匠より直々に薫陶を授かり「音の魔術師」の神髄を会得する。

近年はさらに活躍の場を広げ、2017年9月にサントリーホールにて「日タイ修好130周年記念・王立バンコク交響楽団日本公演」を指揮し、聴衆のみならず両国関係者から高い評価を受け、2018年8月の定期公演に招聘。再び好評を博す。また、2018年9月には南米、チリ共和国コンセプション交響楽団の定期公演を指揮し、大成功のうちに南米デビューを果たす。再演を熱望され、早くも2019年10月に再共演の予定である。